

報第11号

令和6年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について

令和6年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について、神奈川県教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第2項の規定により事務を臨時に代理し、次のとおり被表彰者を決定しましたので、同規則第2条第3項及び教育委員会の指示事項の1の(3)の規定に基づき報告します。

令和6年10月22日提出

神奈川県教育委員会  
教育長 花 田 忠 雄

## 令和6年度神奈川県優秀授業実践教員表彰被表彰者一覧

## 第1部門 20名（小学校4名、中学校4名、高等学校11名、特別支援学校1名）

|    | 学校名         | フリガナ<br>氏名         | 職名   | 教科等名              | 授業実践等の概要   |
|----|-------------|--------------------|------|-------------------|--|
| 1  | 逗子市立小坪小学校   | キクチ ユウヤ<br>菊池 優也   | 教諭   | 総合的な<br>学習の<br>時間 | 総合的な学習の時間の授業において、地域が抱える課題について、児童自らが課題を見つけ、その解決に向け、関係者へのインタビューや体験活動など、実践的な学びを多く取り入れた授業実践を行っている。           |
| 2  | 座間市立旭小学校    | フジワラ チカラ<br>藤原 力   | 教諭   | 全教科               | 生活の授業において、児童とのコミュニケーションを大切にしながら、ICTを効果的に活用し、全ての児童が主体的に学習に向かうことを目指した授業実践を行っている。                           |
| 3  | 南足柄市立岩原小学校  | エンドウ ミノル<br>遠藤 稔   | 総括教諭 | 全教科               | 算数の授業において、児童の実態を踏まえた単元構成を考えるとともに、自力解決の時間と話し合いの時間、考えを深め合う時間との配分に気を配り、児童の問いや考えを大切にしながら授業実践を行っている。          |
| 4  | 横須賀市立鶴久保小学校 | イケダニ ヨシロウ<br>池谷 祥郎 | 総括教諭 | 全教科               | 国語の授業において、常に児童を主体として授業を展開し、一人ひとりの発言や感性を的確に把握して、発問を工夫したり、児童同士の意見をつなげることで、児童が達成感を感じられるような授業実践を行っている。       |
| 5  | 茅ヶ崎市立西浜中学校  | ミウラ アユミ<br>三浦 あゆみ  | 総括教諭 | 技術・家庭             | 技術・家庭の授業において、家庭科の視点と知識を身に付ける方法として、実験や実習からの問いづくり、自分の実践と得た情報とを組み合わせさせたレポート作成など、探究的な手法で学ぶ授業実践を行っている。        |
| 6  | 葉山町立葉山中学校   | ナイトウ クミコ<br>内藤 久美子 | 総括教諭 | 外国語<br>(英語)       | 英語の授業において、身に付けたい力を明確にし、日常の授業の積み重ねの中で、生きた英語能力が身に付くよう指導を重ねるとともに、レシテーションコンテストの実施など、それを生かす場面を設定した授業実践を行っている。 |
| 7  | 大和市立下福田中学校  | クロイ ナオコ<br>黒井 尚子   | 総括教諭 | 音楽                | 音楽の授業において、国際教育の視点を取り入れ、他国の音楽や文化について生徒自身が考え、その違いを認識し、お互いの良さを認め合えるよう指導を行うなど、豊かな情操を育む授業実践を行っている。            |
| 8  | 平塚市立旭陵中学校   | ナカノ エリカ<br>中野 恵理佳  | 教諭   | 技術・家庭             | 技術・家庭の授業において、生徒の実態を把握して指導と評価の計画を立て、自らの生活に興味を持てるよう、実験、実習を行うなど、生徒の課題を設定する力や主体的に取り組む姿勢を高める授業実践を行っている。       |
| 9  | 県立神奈川工業高等学校 | サエグサ ユウタ<br>三枝 祐太  | 教諭   | 数学                | 数学の授業において、復習を丁寧に行うことで生徒が学習の見通しを立てやすいように指導を工夫するとともに、演習の時間を十分に取って、生徒の数学的活動が充実するような授業実践を行っている。              |
| 10 | 県立神奈川総合高等学校 | フクシマ タケン<br>福島 豪   | 総括教諭 | 公民                | 公民の授業において、生徒が自己の課題と結び付けて思索できる問いを設定し、ペアワークなどを通して、自己の課題と人間としての在り方・生き方を多面的・多角的に考察し、表現する力を育む授業実践を行っている。      |

|    | 学校名           | フリガナ<br>氏名                 | 職名   | 教科等名        | 授業実践等の概要  |
|----|---------------|----------------------------|------|-------------|---|
| 11 | 県立横浜翠嵐高等学校    | ヨシミズ<br>吉水<br>コウタ<br>浩太    | 教諭   | 数学          | 数学の授業において、協働的な学びを取り入れ、生徒が問題解決の手立てを他の生徒に論理的に説明する機会を設けることで、思考力や表現力、課題解決能力を育成する授業実践を行っている。                       |
| 12 | 県立二俣川看護福祉高等学校 | コマツ<br>小松<br>アキコ<br>明子     | 教諭   | 芸術<br>(音楽)  | 音楽の授業において、生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、生徒の状況を的確に把握して指導・助言するとともに、ICTを効果的に活用して、生徒が相互に学びを深め、自らの学びに活かす授業実践を行っている。            |
| 13 | 県立田奈高等学校      | オノ<br>小野<br>ヒロフミ<br>宏文     | 教諭   | 公民          | 公民の授業において、対話的手法を通じて、生徒自らの考えや他の生徒の意見を踏まえた発言を引き出し、質問に丁寧に対応することで、人間としての在り方・生き方を多面的・多角的に考察し、表現する力を育む授業実践を行っている。   |
| 14 | 県立川和高等学校      | サトウ<br>佐藤<br>ジロウ<br>治郎     | 教諭   | 国語          | 国語の授業において、学習指導要領の深い理解をもとに、単元の目標を明確に示し、綿密に準備した教材を活用して生徒の主体的な活動を引き出し、互いの意見や考えを共有して学びを深めることができる授業実践を行っている。       |
| 15 | 県立上溝高等学校      | キムラ<br>木村<br>ノブヒコ<br>信彦    | 総括教諭 | 地理歴史        | 地理歴史の授業において、生徒が過去から現在、未来へとわたる諸課題に対し、データや資料と向き合い、互いに意見を交わし、自らの意見を得て合意形成を図る主体的・対話的で深い学びを創出する授業実践を行っている。         |
| 16 | 県立麻溝台高等学校     | コンドウ<br>近藤<br>ミツアキ<br>充暁   | 総括教諭 | 国語          | 国語の授業において、生徒が学習目標を把握し、体系的に学習内容を振り返ることができる学習シートを構築するなど、個別最適な学びの実現に向けた言語活動の設定や、生徒への指導・助言を意識した授業実践を行っている。        |
| 17 | 県立上溝南高等学校     | オマク<br>小俣<br>ワカナ<br>若菜     | 教諭   | 国語          | 国語の授業において、工夫した教材で生徒の興味・関心を高めるとともに、ペアやグループ、個人での活動を組み合わせることで生徒の発言を引き出し、協働的な雰囲気の中で、生徒一人ひとりの思考力・表現力を育む授業実践を行っている。 |
| 18 | 県立上鶴間高等学校     | ユウダ<br>夕田<br>テツヤ<br>哲也     | 教諭   | 国語          | 国語の授業において、インクルーシブ教育実践推進校として授業のユニバーサルデザインを意識しつつ、一人一台端末を活用して、個別・協働・一斉学習を効果的に行うことにより、言葉による見方・考え方を育む授業実践を行っている。   |
| 19 | 県立大磯高等学校      | コイスマル<br>小犬丸<br>アキヒロ<br>彰宏 | 教諭   | 外国語<br>(英語) | 英語の授業において、4技能5領域をバランスよく指導できるよう、単元の全体像を意識した教材作成を行い、様々な活動を通して学習できるように授業展開を工夫し、生徒が英語を使う場面を多く取り入れた授業実践を行っている。     |
| 20 | 県立三ツ境支援学校     | スガノ<br>菅野<br>ユカコ<br>由佳子    | 教諭   | 特別支援        | 美術の授業において、目標を明確に示した上で、生徒一人ひとりの実態に応じた教具・自助具を用意して、自分でできる活動と意欲を引き出し、生徒が活動の主体となるよう意識した授業実践を行っている。                 |

## 第2部門 21名（小学校4名、中学校2名、高等学校13名、特別支援学校2名）

|    | 学校名         | フリガナ<br>氏名        | 職名 | 教科等名 | 授業実践等の概要  |
|----|-------------|-------------------|----|------|---|
| 1  | 厚木市立上荻野小学校  | ユウキ 翔太<br>結城 翔太   | 教諭 | 全教科  | 体育の授業において、児童の実態を把握して学年の発達段階に応じた課題設定を行い、児童同士が関わり合う活動を効果的に設けることで、児童が運動の楽しさを感じ、主体的に活動する授業実践を行っている。               |
| 2  | 海老名市立海老名小学校 | ヒラタ 智也<br>平田 智也   | 教諭 | 全教科  | 体育の授業において、児童それぞれのレディネスを把握した上で授業を構築するとともに、児童同士の対話や意見交流を取り入れ、児童が各自の課題について主体的に考えながら学習を進める習慣を身に付けられる授業実践を行っている。   |
| 3  | 小田原市立下中小学校  | シバヤ 純子<br>渋谷 純子   | 教諭 | 全教科  | 国語の授業において、言葉や表現を大事にするとともに、学びの足跡や板書等の活用を図ることで、児童の意欲的な学びに繋げているほか、振り返りを通して、児童自身が学びの成長を実感できる授業実践を行っている。           |
| 4  | 大井町立上大井小学校  | ツダ 壮志<br>津田 壮志    | 教諭 | 全教科  | 算数の授業において、児童一人ひとりが自分の考えを持つことを重視し、児童の実態や求めに応じて学習形態を変化させ、より主体的に学習に臨めるようにするなど、児童を中心に考える授業実践を行っている。               |
| 5  | 秦野市立東中学校    | イワモト 光司<br>岩本 光司  | 教諭 | 社会   | 社会の授業において、新聞を積極的に活用し、社会への関心を高め、自分ごととして考えを深めることにつなげているほか、多くの情報の中から正しい情報を読み解く情報活用能力、読解力等の育成を図る授業実践を行っている。       |
| 6  | 二宮町立二宮中学校   | ホンマ 智己<br>本間 智己   | 教諭 | 理科   | 理科の授業において、生徒の興味・関心を高める工夫を凝らして実験や体験を重視した授業を展開し、基礎・基本の定着を図るとともに、相互指名やグループ活動など、生徒同士で意見を伝え合えるよう工夫した授業実践を行っている。    |
| 7  | 県立鶴見総合高等学校  | アオキ はるな<br>青木 はるな | 教諭 | 国語   | 国語の授業において、的確な生徒実態の把握に基づき、難易度別の課題を複数準備するなど、個に寄り添いながら生徒が意欲的に取り組める環境を整備し、確かな理解を定着できる授業実践を行っている。                  |
| 8  | 県立新羽高等学校    | ワタナベ 裕哉<br>渡部 裕哉  | 教諭 | 地理歴史 | 地理歴史の授業において、生徒の興味をひく探究課題を示し、資料読解や議論などの活動的な学びを通して、生徒の歴史に関する見方・考え方や現代的な課題への向き合い方を深める授業実践を行っている。                 |
| 9  | 県立岸根高等学校    | ヤマガシラ 康太<br>山頭 康太 | 教諭 | 国語   | 国語の授業において、単元の目標を明確に示し、授業構成にグループ協議等を効果的に取り入れ、ICT端末を適切に活用することにより、生徒の読解力に加え、表現力、発信力を育成する授業実践を行っている。              |
| 10 | 県立横浜修悠館高等学校 | タカトリ 夏希<br>高取 夏希  | 教諭 | 地理歴史 | 地理歴史の授業において、生徒の多様な特性を踏まえ、本時の見通しを持てるようにすることで安心して学べる環境を作り、ICTを活用して生徒が自分の考えをオンラインで発表する場を設けるなど、考える力を育む授業実践を行っている。 |

|    | 学校名         | フリガナ<br>氏名           | 職名 | 教科等名        | 授業実践等の概要   |
|----|-------------|----------------------|----|-------------|--|
| 11 | 県立多摩高等学校    | コイケ ユウト<br>小池 祐斗     | 教諭 | 地理歴史        | 地理歴史の授業において、歴史に関わる事象について、他者の意見を取り入れたり踏まえたりして考察、構想したことを効果的に説明したり、論述したりする力を育成する授業実践を行っている。                     |
| 12 | 県立生田高等学校    | オギハラ ナオト<br>荻原 直人    | 教諭 | 数学          | 数学の授業において、ICTを効果的に活用して授業を最適化することにより、生徒が自ら考える時間を十分に確保し、自分の考えをアウトプットする場面を多く設定するなど、思考力や問題解決を図る力を育成する授業実践を行っている。 |
| 13 | 県立茅ヶ崎西浜高等学校 | ササガワ ジュンペイ<br>佐々川 純平 | 教諭 | 理科          | 理科の授業において、規則性や関係性を見出して理解できるように現象を視覚的に捉えやすくしたり、観察を焦点化し、気づいたことを周囲と共有する機会を設けることで、深い学びを実現した授業実践を行っている。           |
| 14 | 県立上溝高等学校    | イワセ ケンジ<br>岩瀬 憲治     | 教諭 | 数学          | 数学の授業において、講義・演習・ペアワークをメリハリをつけて取り入れることで生徒の集中力が持続するようにしたり、発問を工夫することで、数学的な見方・考え方を育成する授業実践を行っている。                |
| 15 | 県立麻溝台高等学校   | カンダ サトミ<br>神田 聡美     | 教諭 | 地理歴史        | 地理歴史の授業において、「なぜ」「どのように」という問いを主軸とし、生徒が関心を持てる疑問を提示しながら、新しい知識・情報の習得と並行して、生徒が段階的に思考できるような授業実践を行っている。             |
| 16 | 県立相模原弥栄高等学校 | マエザワ ショウスケ<br>前沢 彰祐  | 教諭 | 国語          | 国語の授業において、単元の目標を明確に示し、個人でじっくり考える「個の時間」と「対話的な時間」を適切なタイミングで配置することで、生徒の言語活動を深める授業実践を行っている。                      |
| 17 | 県立大和高等学校    | サイトウ ヒロシ<br>齋藤 裕志    | 教諭 | 外国語<br>(英語) | 英語の授業において、学んだ内容や表現を活かして、生徒が主体的に考えながら、英語で表現する言語活動を取り入れるなど、生徒の英語発話時間を増やすように工夫した授業実践を行っている。                     |
| 18 | 県立座間高等学校    | キムラ コズエ<br>木村 梢      | 教諭 | 数学          | 数学の授業において、生徒の理解度を正確に把握しながら、生徒による解の説明活動を取り入れることにより、主体的な取組を促し、疑問点の共有を図り、自らの力で解決する喜びを味わうことができる授業実践を行っている。       |
| 19 | 県立足柄高等学校    | キリュウ カイセイ<br>桐生 海正   | 教諭 | 地理歴史        | 地理歴史の授業において、一人一台端末を活用し、生徒がデジタルアーカイブを史料として主題について考えることで、国家間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現できる授業実践を行っている。               |
| 20 | 県立武山支援学校    | イシヅ チエ<br>石津 智恵      | 教諭 | 特別支援        | 生活の授業において、児童一人ひとりの実態を的確に把握し、児童に伝わりやすく分かりやすい教材の工夫を行いながら、児童自身が人との関わりについて、主体的に考えて行動する態度を育む授業実践を行っている。           |

|    | 学校名       | フリガナ<br>氏名       | 職名 | 教科等名 | 授業実践等の概要   |
|----|-----------|------------------|----|------|--|
| 21 | 県立あおば支援学校 | ツボイ アヤミ<br>坪井 綾美 | 教諭 | 特別支援 | ことば・かずの授業において、丁寧な実態把握や発達評価に基づき、個々の児童に応じた教材・教具を開発し、児童が主体的に学習に向かい、学ぶ楽しさを感じることができる授業実践を行っている。 |

## 令和6年度神奈川県優秀授業実践教員表彰 制度の概要及び審査経過

### 1 制度の概要

#### (1) 趣旨

教員の人材育成施策の一環として、学校教育における授業実践に優れ、教員の模範として推奨すべき者を表彰し、顕彰するとともに、教員全般の意欲及び資質能力の向上に資する。

#### (2) 導入年度

平成19年度

#### (3) 対象者

県立学校及び市町村立学校（横浜市立、川崎市立、相模原市立の学校を除く）の総括教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭及び常勤講師

#### (4) 表彰候補者の基準

優れた授業の実践が顕著な者（教科指導、特別支援教育に関する指導、保健に関する指導、食に関する指導等）

#### (5) 部門の内容（表彰する年度の4月1日時点）

第1部門：総括教諭又は教職経験10年以上かつ35歳以上である者

第2部門：教職経験10年未満又は35歳未満である総括教諭ではない者

### 2 審査経過

- ・ 4月：市町村教育委員会及び県立学校長に対し推薦を依頼
- ・ 5～6月：県教育委員会に推薦書を提出
- ・ 6～8月：各所管機関において、表彰候補者に対する授業観察及び予備審査を実施
  - ・ 市町村立学校：各教育事務所、横須賀市教育委員会
  - ・ 県立学校：高校教育課、保健体育課、特別支援教育課
- ・ 8月：審査会の実施
- ・ 9月：審査会（座長：教育局長）の意見具申をもとに教育長が被表彰者を決定

### 3 被表彰者数

| 表彰年度<br>部門<br>校種 | 令和3年度 |      | 令和4年度 |      | 令和5年度 |      | 令和6年度 |      |
|------------------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|
|                  | 第1部門  | 第2部門 | 第1部門  | 第2部門 | 第1部門  | 第2部門 | 第1部門  | 第2部門 |
| 小学校              | 3     | 3    | 7     | 3    | 5     | 3    | 4     | 4    |
| 中学校              | 4     | 4    | 2     | 1    | 3     | 3    | 4     | 2    |
| 高等学校・<br>中等教育学校  | 11    | 18   | 10    | 11   | 8     | 17   | 11    | 13   |
| 特別支援学校           | 1     | 3    | 1     | 6    | 3     | 3    | 1     | 2    |
| 合計               | 19    | 28   | 20    | 21   | 19    | 26   | 20    | 21   |

※ 令和6年度被表彰者の年齢等内訳（令和6年4月1日現在）

| 年齢構成                          | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 合計 |
|-------------------------------|-----|-----|-----|-----|----|
| 第1部門 平均年齢：41歳<br>平均教職経験年数：15年 | 0   | 8   | 10  | 2   | 20 |
| 第2部門 平均年齢：33歳<br>平均教職経験年数：7年  | 7   | 12  | 2   | 0   | 21 |
| 合計                            | 7   | 20  | 12  | 2   | 41 |

4 被表彰者の活用（令和5年度被表彰者の実績）

(1) 校内や校外の教員に対する積極的な授業の公開

被表彰者に対し、各学校の校内で決まった期間に相互に授業を見学する機会や、初任者研修の他校訪問などの機会を積極的に活用し、1年以内に授業公開を1回以上行うことを義務付けている。

ア 授業の公開の実績（令和6年10月1日時点）

(7) 校内向け又は校外向けに行う授業の公開

|           | 校内向け公開  | 他校向け公開  | 全ての授業の公開  |
|-----------|---------|---------|-----------|
| 実施総回数     | 160回    | 44回     | 204回      |
| 指導案を作成する  | 56回     | 26回     | 82回       |
| 指導案を作成しない | 104回    | 18回     | 122回      |
| 参観総人数     | 810人 参観 | 453人 参観 | 1,263人 参観 |

(4) 被表彰者一人あたりの平均実施回数及び1回あたりの平均参観人数

|                  | 小学校  | 中学校   | 高等学校・<br>中等教育学校 | 特別支援学校 | 全校種合計 |
|------------------|------|-------|-----------------|--------|-------|
| 一人あたりの<br>平均実施回数 | 8.5回 | 5.5回  | 5.6回            | 1.5回   | 5.4回  |
| 1回あたりの<br>平均参観人数 | 7.0人 | 10.8人 | 4.7人            | 3.1人   | 6.2人  |

イ 主な活用の結果、感想等

- ・ 授業力のある教員が実践を発信することで、その学年だけでなく、学校全体にも良い影響を与えている。経験の浅い教員が、相談したりアドバイスをもらったりする様子も見られた。

- ・ 受賞が本人のやる気につながり、子どもたちへの分かりやすさ、興味・関心を引き付ける教材選びなどに一層磨きがかかったように思う。また、同僚にも良い影響があり、授業を準備する、発問を工夫するなどの授業準備に意欲が増したように見える。
- ・ 被表彰者としての責任感が、町内・町外問わず積極的な授業公開を行う動機付けの一つとなっていたように感じられる。授業公開・協議により、教員同士の横展開による授業観の共有が図られ、探究的な学びの推進につながった。
- ・ 授業見学者より、「授業展開の工夫や視覚教材の活かし方、生徒への接し方など、自分の授業でも参考にしたい点が見つかった」との声があり、職員の授業改善への意欲向上につなげることができたと感じている。
- ・ 受賞した当該教員は、今まで以上に研鑽を深め積極的に還元しようとしており、そのことが校内での教科の活性化につながっている。教員の年齢に関係なく、教科全体が学びの輪を広げており、非常に良い効果を得ている。

## (2) 教員研修等における講師に係る実績

総合教育センター等が実施する研修等に、毎年、一定の被表彰者の活用を義務付けている。

### ア 基本研修における講師（5名）

- ・ 内 容 模範授業、実践報告、協議
- ・ 受講者 41名（地理歴史）、41名（公民）、9名（家庭）、220名（特別支援）、223名（特別支援）

### イ フレッシュティーチャーズキャンプ（新規採用予定者研修）における講師（3名）

- ・ 内 容 実践報告
- ・ 受講者 ※令和7年2月22日・3月1日実施予定のため、現時点で受講者数は未定

## 5 今後の予定

- ・ 11月6日（水） 表彰式 神奈川県庁本庁舎3階 大会議場 16時15分～17時00分